

報 徳 看 護 専 門 学 校

令和6年度

報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果

学校関係者評価報告

報徳看護専門学校 学校評価委員会

目 次

【自己点検・自己評価】

1. 学校のディプロマポリシー	p1
2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	p3
3. 令和6年度自己点検・自己評価の実施・結果	p4
4. 評価項目の結果と課題	
1) 教育理念・目標	p5
2) 学校運営	p6
3) 教育活動	p7
4) 学修成果	p8
5) 学生支援	p9
6) 教育環境	
7) 学生の受け入れ募集	p10
8) 財務	p11
9) 法令等の遵守	
10) 社会貢献・地域貢献	p12

【学校関係者評価】

学校関係者評価報告	p13
-----------------	-----

令和6年度報徳看護専門学校自己点検・自己評価報告書

1. 学校のディプロマポリシー（卒業時の学生像）

1. 人を尊重できる姿勢と高い倫理観をもった看護実践ができる。
2. 感性豊かな人間性が備わっている。
3. 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる。
4. 対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚ができる。
6. 専門職として継続学習や専門性探求のための主体的学習ができる。
7. 自己の心身の健康を維持し、自己の行動に責任をもつことができる。

上記ディプロマポリシーについてルーブリックを用いて評価した。

各学年のディプロマポリシー達成目標レベル

学年達成 目標	レベル1（1年終了時）	必要性がわかり、知識としてわかる。
	レベル2（2年終了時）	必要性がわかり、一部行動できる。
	レベル3（3年次前期）	支援を受けて実践できる。行動できる。
	レベル4（3年次実習終了時）	少しの支援で実践できる。行動できる。

表1 各学年目標に達成した割合

項目	1年生 (レベル1)		2年生 (レベル2)		3年生 (レベル4)	
	学生数23人		学生数40人		学生数32人	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1 人間尊重に基づいた倫理観のある看護実践能力	20	(86.9%)	33	(82.5%)	32	(100.0%)
2 感性豊かな人間性が備わっている	17	(73.9%)	33	(82.5%)	32	(100.0%)
3 統合的对象理解と他者を受け入れる能力	22	<u>(95.6%)</u>	23	<u>(57.5%)</u>	30	<u>(93.8%)</u>
4 科学的思考に基づいた看護実践能力	15	<u>(65.2%)</u>	26	(65.0%)	30	<u>(93.8%)</u>
5 チームとしての連携・協働	14	<u>(60.8%)</u>	22	<u>(55.0%)</u>	32	(100.0%)
6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢	20	(86.9%)	25	(62.5%)	32	(100.0%)
7 自己の心身マネジメントと責任	21	<u>(91.3%)</u>	30	(75.0%)	32	(100.0%)

各学年の4段階のディプロマポリシー達成目標レベルに達成した割合（表1）を示した。

1年次では、項目5「保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚ができる」の60.8%を最低に、項目4「対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる」が65.2%、その他全ての項目は70%を達成した。特に項目3「対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる」、項目7「自己の心身の健康を維持し、自己の行動に責任をもつことができる」では90%以上が達成された。

2年次では、項目5「保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚格ができる」が55.0%、項目3「対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる」

が 57.5%であった。その他の全ての項目は 60%以上を達成した。特に項目 1「人を尊重できる姿勢と高い倫理観をもった看護実践ができる」、項目 2「感性豊かな人間性がそなわっている」においては 80%が達成された。

3 年次では、項目 3「対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる」、項目 4「対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる」の 2 項目が 93.8%、その他すべての項目で 100%を達成した。

項目 5「チームとしての連携・協働」の達成レベルが 1 年次 60.8%、2 年次 55.0%と低値であった。1 年次の目標達成レベル 1 は「必要性がわかる、知識としてわかる」、2 年次は「必要性がわかり、一部行動できる」である。1 年次の学修内容は基礎的知識の修得、臨地実習では地域での生活者や看護の場を体験することであり、他職種について学修はしているものの患者を中心としたチームとしての連携・協働の必要性まで考えられていない。2 年次には 1 年次の基礎知識を土台とした専門的な看護学の学修が中心となるが、基礎看護学実習Ⅱおよび領域実習 3 クールの実施経験で「一部行動できる」には至っていないことが推測できる。項目 5 に関わる科目は、3 年次に実施する看護の統合と実践Ⅰでの多職種連携教育や領域別臨地実習における各科目での多職種連携に関わる目標設定である。3 年次の項目 5 の評価が 100%であることから臨地実習での経験が連携・協働に重要な要素であることがわかる。

項目 3 においては 1 年次より 2 年次の達成度が低下している。1 年次の回答は、主に机上学習により、これらの能力や自己について「理解している」と感覚的に回答している可能性がある。2 年生になり一人の患者を受け持った基礎看護学実習で、より専門的な知識を活用し患者に合わせた看護を導き出すプロセスを実体験し、自身の知識や様々な技術の不足に気付いていると考えることができる。3 年次にはこれらの達成レベルが上昇しているため、3 年次の臨地実習を経験することで自身の主体的学習につながり、活用できるだけの知識の定着と他者・自己理解が培われていくと考えられる。一方で、項目 1 の自身の倫理観や科学的思考に基づいた看護実践能力、項目 2 の感性豊かな人間性が備わっているかについては、本校学生が 1 年次から自己の人間性や倫理観について高い自尊感情を持っていると考えることができる。また、特に 1、2 年次の各項目と達成目標レベルのパーセンテージのばらつきは、クラスの学生数も影響していると考えられる。

本年度の 3 年次は新カリキュラムによる学習計画となり実習期間が短縮された。替わって主体的学習時間は増加できた。3 年次の高い達成レベル状況が主体的学習時間の増加によるものかはアンケートから抽出することはできないが、実習前後の学習時間を活用し、臨地実習での学びがより深まるよう関わっていく必要がある。

2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和5年度の評価結果を基に、令和6年度の活動目標を以下のように設定し取り組んだ。

1) 令和6年度活動目標

1. 看護師国家試験の合格率100%を目標として、重点的に学生への支援をする。
2. 学生がディプロマポリシーを自らの学習に活かすことができるよう支援する。
3. 看護実践を行うための知識・技術・態度を持てるように、個々の学生にあわせた指導をする。
4. ICTを効果的に活用し、業務の効率化ができる環境を整備する。

2) 重点目標の自己点検・自己評価項目による評価

活動目標	自己点検・ 自己評価項目	項目自己評価平均点			
		R6	R5	R4	R3
1. 看護師国家試験合格率の向上	(4) ②	3.4	3.3	3.4	3.5
2. ディプロマポリシー達成の意識化	(1) ③④ (3) ⑩	3.3	3.4	3.5	3.3
3. 学生指導の充実	(3) ④	3.2	3.3	3.3	3.2
4. 業務の効率化	(2) ⑦	3.0	2.7	3.1	2.9

〈目標1〉

看護師国家試験の100%の合格という数字目標を明文化し、それに向けて、学校全体で学生支援に取り組んだ。結果は、第114回看護師国家試験の本校の新卒合格率は93.8%（全国平均合格率95.9%）であった。次年度に向けて、学生間の学力にあわせた指導、学生への生活・精神的な支援を更に強化し、合格率向上に向けて取り組んでいく。

〈目標2〉

実習ではルーブリック評価を利用しながら学生自らのディプロマポリシーの達成度を振り返るように教員が積極的に働きかけた。更に、節目ごとにディプロマポリシーの読み合わせなどを実施した。今後は、学校生活の全般でディプロマポリシーを意識した教育展開していく。

〈目標3〉

個々の学生にあわせた指導を実施してきた。看護の知識・技術の学修、看護師として求められる態度の習得力は、生活背景などの学生の差がある。学生の多様化に対応するために、教育方法や関わり方の工夫を実践していく。

〈目標4〉

ICTを積極的な活用をしたために、会議の効果的な運営、データ管理、会議録作成の短縮化などの業務の効率化ができるようになった。今後も、最新のICTツールの導入活用をして、業務の効率化、ICT教育の拡充に努めていく。

3. 令和6年度 自己点検・自己評価の実施・結果

- 1) 実施日：2025年1月13日～2025年2月7日
- 2) 対象者：教職員17人（教員12人、事務職員5人）
- 3) 評価項目：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施したが、実施にあたり昨年度と同様に、全員が共通理解し適切な評価が行われるよう評価項目を見直した。大項目はレーダーチャート（図1）に示す。

- 4) 評価基準：

4	適切（当てはまる）
3	ほぼ適切（ほぼ当てはまる）
2	やや不適切（あまり当てはまらない）
1	不適切（当てはまらない）

5) 結果の大項目年度比較

令和6年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均3.3であった。令和5年度の3.4より0.1下回った。全10項目のうち「社会貢献・地域貢献」のみが上昇した。それ以外は0.1～0.3の幅で昨年度より下回った。

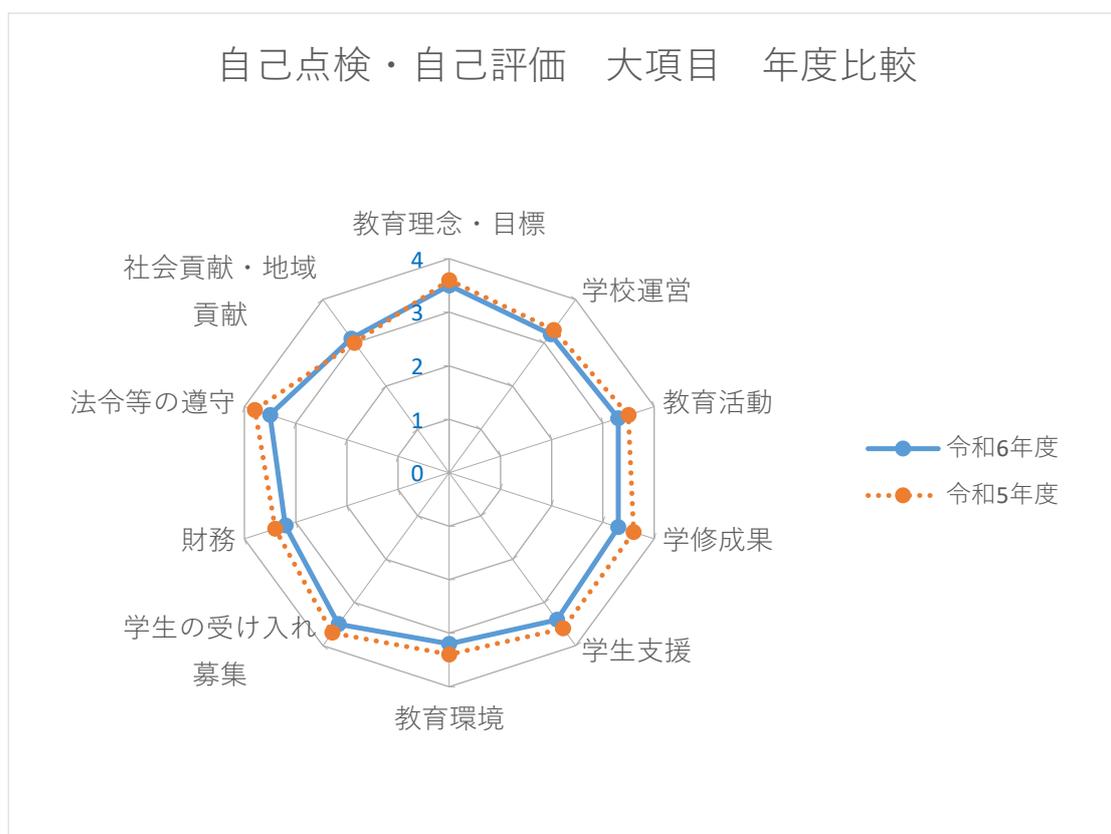


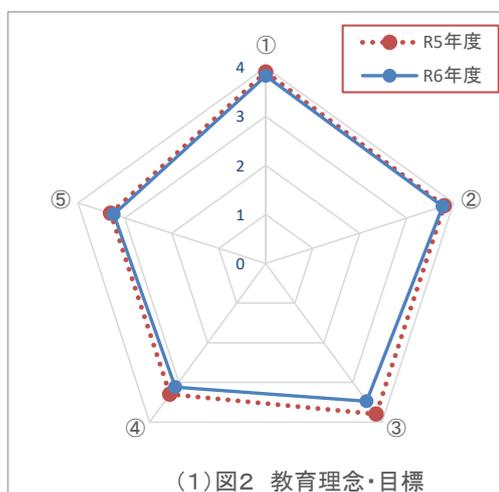
図1 自己点検・自己評価 大項目 年度比較

4. 評価項目の結果と課題

1) 教育理念・目標 (図2)

総平均点は、昨年度より 0.1 下がっている。特に「③教育理念、教育目的、ディプロマ・ポリシー (卒業時の学生像) は教職員の教育活動の指針になっている。」と「④教育理念、教育目的、ディプロマ・ポリシー (卒業時の学生像) は学生の学習活動の指針として浸透している。」の項目が昨年度より下がっている。ディプロマ・ポリシーは「教育の概要」に本校の教育方針として位置づけており、学生個々がディプロマポリシーの到達度を評価する機会も設けているが、より多く目にする機会を設け意識づけて浸透させていく必要がある。次年度は、いつでも確認できるようにディプロマ・ポリシーを学生に貸与している iPad 等への表示等を検討する。

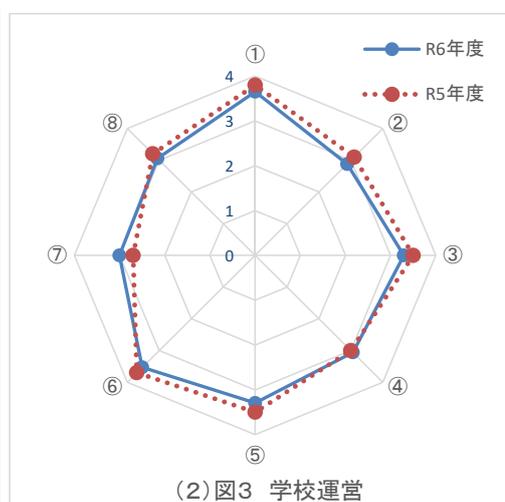
評価項目		平均点	
		R6年度	R5年度
①	教育理念・教育目的・ディプロマポリシー(卒業時の学生像)を明文化している。	3.8	3.9
②	学校における看護教育の特色が定められている。	3.8	3.8
③	教育理念、教育目的、ディプロマポリシー(卒業時の学生像)は教職員の教育活動の指針になっている。	3.5	3.8
④	教育理念、教育目的、ディプロマポリシー(卒業時の学生像)は学生の学習活動の指針として浸透している。	3.1	3.3
⑤	教育目標・ディプロマポリシー(卒業時の学生像)は地域社会のニーズを踏まえている。	3.2	3.3
総平均点		3.5	3.6



2) 学校運営 (図3)

総平均点は昨年度より0.1下がっているが、評価項目のうち「⑦情報システム化等による業務の効率化が図られている。」が上がっている。昨年度、臨地実習時以外の健康チェック表の廃止や出欠席管理方法の効率化が課題として検討され、出欠席管理のデータ化へ取り組んだこと等を含め、教職員個々が、各自の業務の中でIT化を意識して取組んだ成果と思われる。「⑧学生の意見が学生主体の運営活動の場等で反映されるように努めている。」は、学生が主体で行う学校行事などにおいて学生を尊重した学生の運営を支援しているが「学生の意見の反映」の部分において、会議などがさらに学生の意見を吸い上げた意思決定の場となるよう支援のあり方を検討する必要がある。

評価項目	平均点	
	R6年度	R5年度
① 教育目的に沿った教育方針・活動目標が明確化し運営されている。	3.6	3.8
② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化がされている。	2.9	3.1
③ 運営組織や意思決定システムは諸規定に明文化され、運営会議および教職員会議等に反映されて機能している。	3.3	3.5
④ 人事、給与に関する制度が諸規定に明文化され、教職員に周知されている。	3.1	3.0
⑤ 教務及び事務の組織が整備され、校務分掌は明文化されている。	3.3	3.5
⑥ 教育活動に関する情報公開が、自己評価結果の公開等により適切になされている。	3.5	3.7
⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られている。	3.0	2.7
⑧ 学生の意見が学生主体の運営活動の場等で反映されるように努めている。	3.1	3.2
総平均点	3.2	3.3

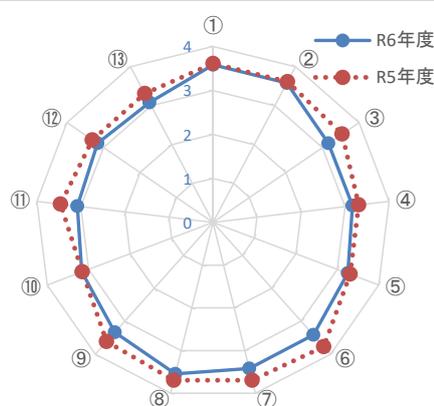


3) 教育活動 (図4)

総平均点は昨年度より 0.2 下がっている。今年度は新カリキュラムの完成年度になり、教育活動において大きな混乱等は見受けられなかったが学習内容において重複や不足が見え始めている。評価項目「③カリキュラムは学習内容にまとまりがあり、順序性をふまえて構築されている。」が下がっていることから伺えるため、今後はその整理への検討が必要と思われる。

「⑬職員の能力開発のための研修、学会等への参加が行われている。」については、昨年度より下がるはいるが、栃木県看護系教員協議会主催の研究会や学会等への参加があり、自己研鑽の時間確保ができたものと思われ、今後も継続したい。

評価項目	平均点	
	R6年度	R5年度
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。	3.6	3.6
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている。	3.6	3.6
③ カリキュラムは学習内容にまとまりがあり、順序性をふまえて構築されている。	3.2	3.5
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されている。	3.2	3.3
⑤ 関連分野の関係施設等との連携によりカリキュラムの作成と見直し等が行われている。	3.3	3.3
⑥ 授業評価の具体的な実施・評価体制がある。	3.4	3.8
⑦ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れている。	3.4	3.7
⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確になっている。	3.5	3.7
⑨ 資格取得の指導体制があり、カリキュラムとの関連した位置づけである。	3.3	3.6
⑩ ディプロマポリシーへの育成に向け授業を行うことができるよう、教員の資質向上のための取組みが行われている。	3.2	3.2
⑪ 授業が実務経験のある優れた教員(専任・兼任含め)により行われるよう、関連分野における業界等との連携においてその確保に努めている。	3.1	3.5
⑫ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われている。	3.2	3.3
⑬ 職員の能力開発のための研修、学会等への参加が行われている。	3.1	3.3
総平均点	3.3	3.5



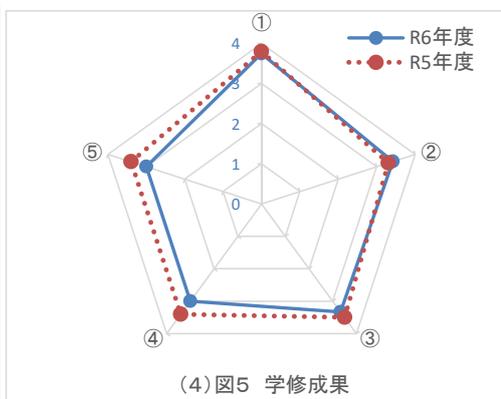
(3)図4 教育活動

4) 学修成果 (図5)

総平均点は0.2下がっているが「②資格取得率(国家試験)の向上が図られている。」が上がっている。これは15期生が受験した第113回看護師国家試験の合格率が、前年度14期生が受験した第112回の合格率を大幅に上回った成果と思われる。16期生が受験した第114回においては15期生の合格率を上回っており、今後も全員合格を目指していきたい。

評価項目の「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握する活動が行われている。」と「⑤卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている。」は下がっている。卒業生の動向等、卒業後の様子を把握する機会を設け卒業後も支援できる体制を構築していく必要がある。

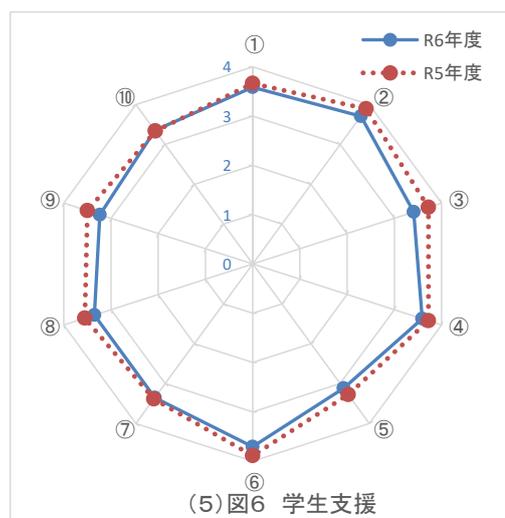
	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	就職率の向上が図られている。	3.8	3.8
②	資格取得率(国家試験)の向上が図られている。	3.4	3.3
③	退学率の低減が図られている。	3.3	3.5
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握する活動が行われている。	3.0	3.4
⑤	卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている。	3.0	3.4
総平均点		3.3	3.5



5) 学生支援 (図6)

総平均点は昨年度より 0.2 下がっている。昨年度は「①進路・就職に関する支援体制が整備されている。」への検討が課題であった。今年度もクラス担当教員が中心となり、就職などへの支援活動を行ってきたが、近年、新入職者の募集時期が早まる傾向が見受けられている。2年次から病院見学等が始まるなど、進路を検討する時期を早めることを見据えた活動が必要となる。教員の業務負担軽減も含め、外部に委託した支援活動を予定し、学生を支援したい。

評価項目	平均点	
	R6年度	R5年度
① 進路・就職に関する支援体制が整備されている。	3.6	3.7
② スクールカウンセラーの配置など学生の健康や学生相談に関する体制を整備している。	3.7	3.9
③ 学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている。	3.4	3.7
④ 学生の健康管理を担う組織体制がある。	3.6	3.7
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されている。	3.1	3.3
⑥ 学生の安全管理(災害共済保険加入等)を行っている。	3.7	3.9
⑦ 保護者に定期的に情報提供を行っている。	3.4	3.4
⑧ 卒業生への進学、就労に関する支援体制が整備されている。	3.4	3.6
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている。	3.2	3.5
⑩ 看護職が社会で果たす役割とその遂行に必要な専門的な技能の育成および職業的自立に向けた支援体制が、看護分野における臨床との連携により行われている。	3.4	3.3
総平均点	3.4	3.6

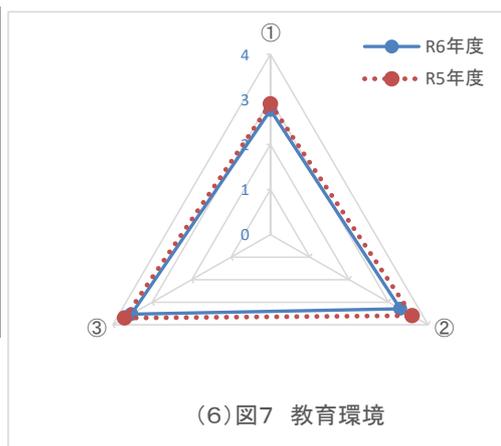


(5) 図6 学生支援

6) 教育環境 (図7)

昨年度の課題は「施設・設備の見直しや整備を計画し、教職員全員で共通認識」であったが、具体的な見直しや計画は行われなかった。学生全員で通信が必要な授業等は、教室を分散するなどして対応しても教室によっては十分な通信が出来ないこともあり、学習活動に支障を来すことがある。教育内容や教育方法等も含め、今後も学生にとってのより良い学習環境を目指し整備することが必要と思われる。

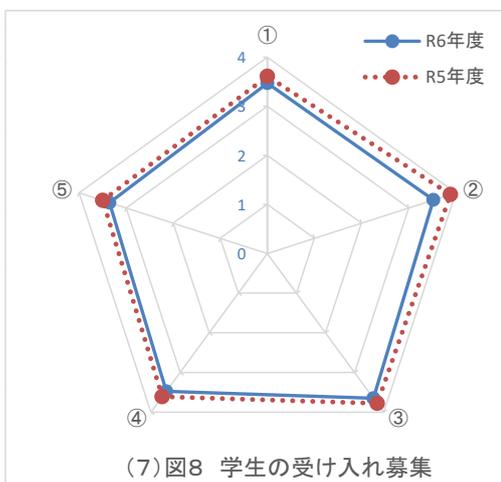
	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。	2.8	2.9
②	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。	3.3	3.6
③	防災訓練を含め、防災に対する体制が整備され防災計画を基に実行されている。	3.5	3.7
総平均点		3.2	3.4



7) 学生の受け入れ募集 (図8)

総平均点は昨年度より 0.1 下がった。令和 6 年度入学生が昨年度よりも減少したことによるものと思われる。学校のホームページに「X (エックス)」を開設するなど SNS の活用はより広く取組み、外部業者が主催するガイダンスへの参加機会も増やすなどの活動も行った。また、放送大学との提携により W スクールの体制を整え令和 7 年度入学生より導入される。18 歳人口の減少はあるものの、18 歳に限らず看護職を志望する人を増やせるよう本校の特色を広報出来る場や方法を今後も検討したい。

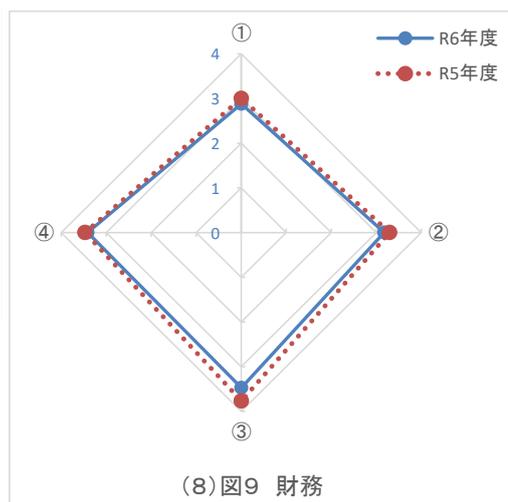
	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	学生募集広報活動の時期、方法は、効果的かつ適正に行われている。	3.5	3.6
②	学生募集活動において、資格取得・就職状況情報は正確に伝えられている。	3.5	3.9
③	学納金(入学や在学中に係る費用等)の情報は明示されている。	3.6	3.8
④	学生の受け入れ方針に基づき、入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、見直しが行われ入学者選抜を適正に実施している。	3.5	3.6
⑤	志願者状況、定員充足率の分析・評価を募集活動の向上に活かしている。	3.4	3.5
総平均点		3.5	3.7



8) 財務 (図9)

総平均点は0.2下がっている。財務に関する情報が公開されていないことも影響していると考えられる。入学生の減少に伴い、学校としての財政基盤が懸念されるが、支出を抑えるべく電力等資源の消費削減に取り組んでいる。会議等授業以外は極力資料をデータ化し電子媒体で共有することや両面印刷を心がけるなどSDGsもふまえた活動へ取り組んでおり、今後も継続したい。

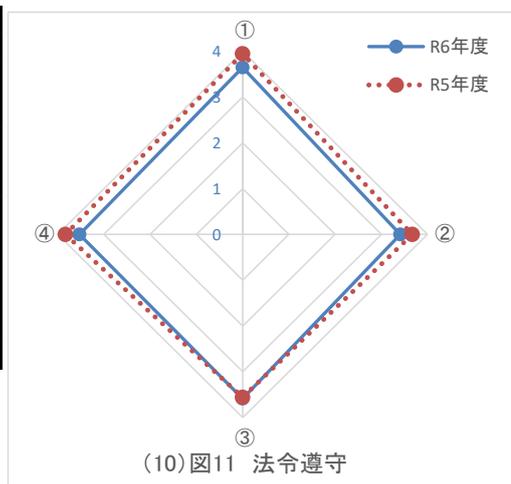
	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	中長期的に学校の財務基盤は安定している。	2.9	3.0
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	3.2	3.3
③	財務について法人の会計監査が適正に行われている。	3.5	3.8
④	法人としての財務情報公開の体制整備はできている。	3.4	3.5
総平均点		3.2	3.4



9) 法令等の遵守 (図10)

総平均点は0.3下がっている。自己点検・自己評価および学校関係者評価結果で明らかになった改善策の周知と共有が課題であり、会議等を通して行ったが、各系の活動へ具体的に取り入れるためにも今後も周知と共有を図る必要がある。また、「② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。」の項目は、今年度も学生の学習活動において、法令順守が必要な行動が見受けられたこともあり、今後も個人情報の保護に取り組む必要がある。

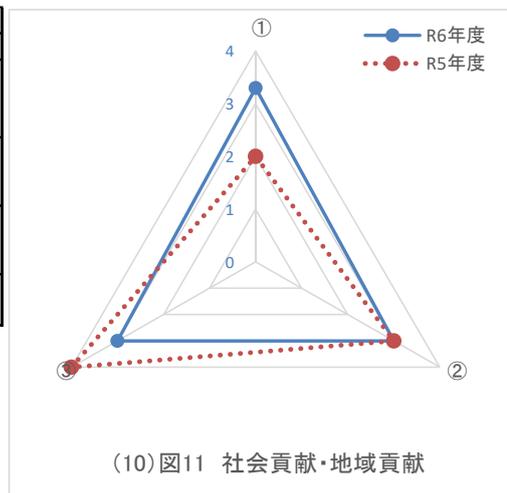
	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	3.6	3.9
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	3.4	3.7
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めている。	3.6	3.6
④	自己点検・自己評価結果及び学校関係者評価結果を学校のホームページへ掲載し閲覧制限なく公開している。	3.5	3.8
総平均点		3.5	3.8



10) 社会貢献・地域貢献 (図 11)

総平均点は昨年度より上回った。リレーフォーライフジャパン栃木への参加や学校祭での一般公開などにおいてボランティア活動や社会貢献に取り組めたと思われる。また、地域のニーズに合わせた講座の開講を検討し積極的に取り組んでいきたい。

	評価項目	平均点	
		R6年度	R5年度
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	3.3	2.0
②	学生のボランティア活動を奨励・支援している。	3.0	3.0
③	地域に対する講座の受託等を積極的に実施している。	3.0	4.0
総平均点		3.1	3.0



学校関係者評価報告

令和7年7月

報徳看護専門学校
学校関係者評価委員会

「令和6年度 報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った結果を報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

- ・実習施設の看護部長
- ・医療法人報徳会統括事務長
- ・同窓会会長
- ・保護者代表

2. 評価結果

1)教育内容・学生の学習状況について

- ・3年生の「科学的思考に基づいた看護実践能力」の評価が、令和5年度は88%であり今年度は93.8%となり改善されたが、学生の知識不足の課題が残る。
- ・臨地実習での関連図や看護過程の思考の不足が委員から指摘され、今年度も更に学内の学修を強化していく必要がある。

2)臨地実習におけるグループ構成と指導体制について

- ・臨地実習グループは年齢・性別・成績を考慮して編成している。
- ・特別な配慮が必要な学生には、先入観を避けつつ事前情報を共有している。そのため、実習指導者と教員が連携し、学生の個別の対応を強化する必要性が確認された。
- ・学生の学習姿勢に個人差があり、グループ構成や事前情報の共有が指導の質に影響される。

3)看護師国家試験対策と成果について

- ・100%合格を目標に対策をしている。令和5年度の国家試験対策は学生の縦割りグループ学習や学生主体の取り組みが今年度の合格率上昇の効果を得た。
- ・科学的思考の基礎が不足しているとの指摘もあり、今後の講義の中での強化が必要である。

4)学生の多様性と指導の課題について

- ・年齢層の広がり（40代の学生も増加）により、指導方法の柔軟性が求められる。
- ・社会人経験者と現役生の意識差があり、上下関係や自覚の育成が課題となる。
- ・勤勉な学生が多い一方で、学修態度に課題があるとの意見もあった。

5)学生募集と広報活動について

- ・本校への入学者数が減少傾向である。特記すべきことは、令和7年度入学生のうち6名が留学生であった。留学生は日本語能力試験でN2レベルの学生を入学させている。

- ・ SNS やホームページの活用が重要である。ショート動画やリンクへの導線の工夫が提案された。
- ・ 看護師志望の現役生を増やすための広報強化が必要である。

6)教育の在り方について

- ・ 学生の理解力に合わせた課題提示や指導方法の見直しが必要である。
- ・ 教員や臨地実習での指導者の「教える側」も変わる必要があるという意見が多数あった。
- ・ 時代のニーズに合った教育方法の導入が求められる。

7)財政状況と法人の支援

- ・ 入学者減少により財政的に厳しい状況であるために、教育や業務の見直しが必要となっている状況である。
- ・ 報徳会の法人として学校設立の意義を再確認し、支援体制の強化が求められる。

以上

【お問い合わせ先】

報徳看護専門学校 学校評価委員会

住所：栃木県宇都宮市上横田町1302-12

TEL：028-688-4040（代）